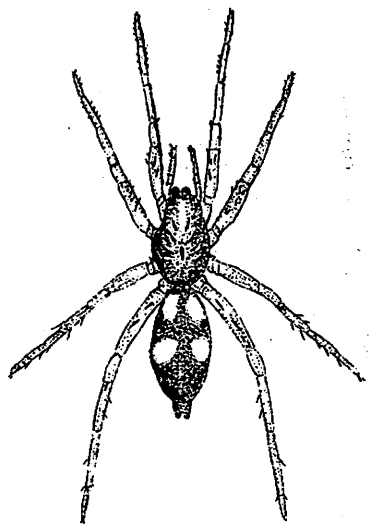


東京蜘蛛談話会誌

KISHIDAIA

No. 25



東京蜘蛛談話会

東京都日野市豊田1,896 萱嶋泉方

PHONE : 0425 - 81 - 7128

日本の疑問蛛

八木 沼 健 夫

日本の完全なクモのリストを作るには、全種について十分検討されてあることが必要で、数多くの個体につき綿密な観察、原記載——できればタイプ標本との照合によつて種の確認と適切な所属の判定がなされねばならない。しかしこれは1人の人間では一生かかつても不可能な仕事である。今回リストの改訂版を出したが、第1回よりはいくらかは前進したというものの未解決のものがなお多く含まれている。過去の主な文献に出ているものはそのまま掲げてあるが、この中にもその種が果して日本にいるものか、またその種の存在は確認されても属が正しいかどうかなどの問題が多数ある。リストは最終決算であるべきだが、また別な観点から今後吟味検討する足がかりとすることにも意味があると考へてあえて不完全ながら印刷した次第である。

今回本誌上を借りて問題とすべき主なクモについて述べ、多くの方々の今後の研究テーマの材料を提供したい。

1. キハダガケジグモ (キハダヤミグモ) *Amaurobius (Callobius) clausstrarius* (HAHN)

斎藤三郎博士の報文にあり、筆者も北海道産のものをこれに同定して来たが、今まで見たものはすべて別種であることが分つた。従つて拙著図鑑に記載されてあるキハダガケジグモならびに今日まで同定して来たものはすべて エゾガケジグモ *Callobius hokkaido* LEECH と訂正する。斎藤氏の図には明瞭な白色対斑があり、また標本見てないので当分これを残すことにするが、北海道に果して2種いるかどうか今後御注意願いたい。

2. ヤマトガケジグモ *Titanoeca nipponica* YAGINUMA

種としては独立種と認められるが、この属は *Titanoeca* でよいか、*Nurscia* とすべきなのかについて検討を要する。Lehtinen は *Nurscia* だといひ、Leech は *Titanoeca* だといひ。また Lehtinen は ヤマトガケジグモは *Nurscia albosignata* Simon ではないかといつている。因みに *N. albosignata* はコーカサス・トルコ・メソポタミア・シリアから記録がある。

3. クロカケジグモ *Amaurobius (Ixeuticus, Badumna) insignis* L. KOCH

永らく分らなかつたクモで Lehtinen に同定してもらつた結果上記学名のものだと教えられた。しかし *A. insignis* はニュージーランドに分布するクモであるだけに疑問があり、Leech はニュージーランドから日本へはいつたという何らかの証拠がなければ新種とした方がよくはないかと言つている。Lehtinen は属を *Badumna* とし、Leech は *Ixeuticus* として *Badumna* をシノムに落している。大分やつかいなクモである。既知産地大阪府八尾市の一部のみ(多産、♂未知)

4. コウライマネキグモ *Miagrammopes coreensis* YAMAGUCHI

韓国産のものならびに九州産のものに岸国久吉博士が命名されたもので、後九州産のものについて山口鉄男氏が記載された。マネキグモの同種内の変異ではないかとの疑問が持たれる。

5. マエカケウズグモ *Uloborus incognitus* Doen. et Str.

原記載にあるのみで誰も採集していない。ウズグモかカタハリの変異ではなかるうか。本種に限らず命名者に Doen. et Str. とあるものにはあやしいものが多い。

KISHIDAIA, 1625, 1971, May

6. マツガエウズグモ *Uloborus prominens* Boes. et Str.

本種も原記載以来の採集記録がない。しかし岸田久吉博士は「本種は実際にいるが、他のウズグモと大部様子がちがっているので属を *Yokoborus* としようと思つている」と話されたことがある。*Yokoborus* はタイプ産地がヨコハマだからである。

7. ツクシエンマグモ *Segestria senoculata* (Linné)

筆者が知らないだけかも知れぬが、今までに見たエンマグモはすべてコマツエンマグモであつた。ツクシと同定できるものがとれたら見せていただきたい。旧北区に広く分布する普通種だからいるかも知れない。

8. イノシグモ *Dysdera crocota* karsch

リストなどから拾い上げて分布地を Hn, K, Rk. としたが、筆者はまだ同定したことがない。岸田氏によればたしかに居るが、極めて稀だとのこと。

9. ボカシミジグモ *Dipoena castrata* Boes. et Str. とミジグモ *D. uniforma* Boes. et Str.

前者は♀で、後者は♂で記載されている。同一種の♀♂かも知れない。

10. ツリガネグモ *Steatoda cavernicola* (Boes. et Str.) とハンゲツオスナキグモ *S. albilunata* (Saito)

ツリガネグモと称されていたものの中にはツリガネヒメグモやヒザブトヒメグモがあつた。原記の図に合うものがとれるが、それらはすべて幼生。どうもツリガネはハンゲツの♂幼生のような気がする。

11. オスナキグモ *Steatoda japonica* (Doen. et Str.)

過去のリストに散見せられるが、筆者は一度も採集したことも見たこともない。

12. ハナオニグモ *Araneus cucurbitinus* Clerck とムツボシオニグモ *A. displicatus* Hentz

一般に腹背の黒色対斑で区別されるが、これだけで種は分けられないようである。欧州の学者間にもかなり混同が見られる。Bonnet は後者を前者の亜種としている。日本に明瞭に区別される2種がいるかどうか再検討を必要とする。

13. サガオニグモ *Araneus astridae* (Boes. et Str.)

現在 *A. astridae* と同定されているクモは、原記載の図と大分ちがうのが気がかりである。斎藤氏の図鑑の図は原記載の図(チャツノオニグモ)によく似ている。筆者はまだ原記載の図や斎藤氏の図にあるものを採集したことがない。

14. ミゾガネグモ *Argiope maja* Boes. et Str.

リスト中にも書いておいたように、体長20mmもある *Argiope* が今日まで誰の目にもふれないのが不思議である。一体 *A. maja* は何者なのだろうか。タイプ標本を見たいものである。

15. ウツキドクグモ *Pardosa T-insignita* (Boes. et Str.) とホシドクグモ *P. astrigera* (L. Koch)

ウツキドクグモ、それはあまりにもふつうな種であり、一見してすぐ同定できるところから誰も原記載と照合していない。しかし Boes. Str. の記載をよく眺めると、ウツキドクグモは記載にあわない点が多く、むしろホシドクグモの方によく一致する。今まで2種を混同していたのかと思つて筆者の持つている標本全部を調べたが2種は認められず、すべてホシの記載に一致する。ウツキの原記載にあるものがとれたら見せていただきたい。筆者のこれまで

の報文にも、同定にもホシドクグモというのがあつたが再検討の結果ウヅキと同じである。他にウヅキによく似た *epigynum* を持つものに、中国産の *pardosa chionophila* L. Koch がある。斎藤三郎博士の記述には、ウヅキの前列眼は等大等距離とあるが、今までのウヅキと同定されて来たものは前中眼>前側眼、前中一前中>前中一前側である。この辺にも問題がありそうである。

アクタ・アラクノロギカに掲載された

ハエトリグモ科のクモの記事

つかまえようとすると、クルツとふりむいてにらめっこをするハエトリグモは姿といい、動作といい実に可愛いクモである。このクモに興味を持ちながら、みつめられてしまうと手も足も出ずにいたのであるが、文献だけでも集めてみようと思ひ出した。今回はその一報として、*Acta Arachnologica* 掲載分の目録を作つておく。なお、目録は、著者名の A B C 順とし、採集目録中のハエトリグモについては特別の場合を除き省略した。

- 1) 千国安之輔：日本アルプス山系の蜘蛛目録並びに垂直分布、Vol. No. 4, pp. 224~239, (ハエトリグモ 12種の目録と 17種の垂直分布表) 1940
- 2) ————：面白い日本のクモ 5種、Vol. XIV, No. 1, pp. 29-40, 1955 (チビクロハエトリ *Heliophanus aeneus* の記載)
- 3) 深沢 治男：蜘蛛四種の卵のう、Vol. 1, No. 3, Plate X, 1936 (ナカムラハエトリの卵のう)
- 4) 浜村 徹三：水田におけるクモ類個体群の季節的変動、Vol. XXII, No. 2, pp. 40-50 (アオオビハエトリ、オスクロハエトリの名がみられる) 1969
- 5) 堀 関夫：蜘蛛片々、Vol. VIII, Nos. 1-2, pp. 31-34, 1943 (ハエトリグモ *Menemerus confusus* の触肢の記事あり)
- 6) 細野 善熙：イソハエトリグモの分布に関する追加報告、Vol. V, No. 1, pp. 30-34, 1940
- 7) ————：寸草蜘蛛、Vol. VIII, No. 3, pp. 73-77, 1943 (ハエトリグモの稚魚のぞき及びハエトリグモの餌盗みの記事有り)
- 8) 加藤 正世：蜘蛛の乾式標本を完成する迄、Vol. I, No. 2, pp. 62-65, Plate IX, 1936 (クマアリグモ、ネコハエトリの乾式標本写真)
- 9) Kayashima, I.: Study on Spider (Particularly referring to grass-spiders) to prey upon Fall-web Worms (*Hyphantria cunea* Drury) Vol. XXI, No. 1, pp. 1-30, 1967 (桑畑に棲息するクモ及び、アメリカシロヒトリを捕食するクモについて言及)
- 10) 小林 敏宏：クロアリグモの習性、Vol. No. 3, pp. 105-110, 1936

KISHIDAIA, 1625, 1971, May

- (クロアリグモ=Myrmarchne innermichelis)
- 11) 松原 茂雄(白甲鏞) : 宮崎県の蜘蛛目録 Vol. VII, Nos. 3-4, pp. 99-109, 1942
(アオビハエトリ *Marpissa vittata* Karsch (= *Silerella vittata*) の epigynum の図有り)
 - 12) ————— : 倉敷市で採集せる数種の蜘蛛の観察、Vol. VII, Nos. 3-4,
PP. 140-143, 1942
(*Menemerus confusus* と *Menemerus brachygnathus*
epigynum の図)
 - 13) Miyashita, K. : A Note on the rearing of *Plexippus setipes* Karsch (Araneae: Salticidae)
Vol. XXII, No. 2, pp. 31-34, 1969
 - 14) 中平 清 : 生葉を利用するクモ Vol. XV, No. 2, pp. 17-20. 1958
(オスクロハエトリ、デーニツツハエトリが産室を作るのに生葉を利用することを言及)
 - 15) 中平 清 : クモを襲うクモ、Vol. XVII, No. 1, pp. 1-2, 1960
(チャスジハエトリがオオヒメグモに、カラスハエトリがクサグモに捕食されたこと、アシプトハエトリがウズキコモリグモ、デーニツツハエトリを、チャスジハエトリがナミハエトリ、チャスジハエトリを捕食することを観察)
 - 16) 中村 正雄 : 楽元堂漫筆(第1) Vol. II, No. 4, pp. 157-161, 1937
(ハエトリグモ *Menemerus confusus* の蠅取りと墮する記事有り)
 - 17) ————— : 楽元堂漫筆(第4) Vol. V, No. 2, pp. 80-86, 1940
(古き文献上の蜘蛛の種類中、ハエトリグモの漢名有り)
 - 18) 仲辻 耕次 : 北満洲黒河産のクモに就いて Vol. VII, No. 1, pp. 7-18, 1942
(チャイロアサヒハエトリ *Jotus abnormis* の記載と epigynum の図)
 - 19) 錦 三郎 : クモの空中移動について Vol. XX, No. 1, pp. 24-34, 1966
(ネコハエトリ及びハエトリグモ一種が幼生時にのみ空中移動することの観察)
 - 20) 岡野喜久雄 : 蟻と蜘蛛とに関する若干の資料 Vol. IX, Nos. 1-2, pp. 54-57 1944
(クロアリグモ *Myrmarchne innermichelis* 及びランベルトハエトリ *Hyllus lamperti* の名が有る)
 - 21) 尾崎光太郎 : 稲の害虫を駆除する蜘蛛(通信) Vol. II, No. 3, p. 132, 1937
(ヤハズハエトリ; オスクロハネグモ = *Icius magister* の名がある)
 - 22) 白 甲鏞 : 松原茂雄の項参照 11)、12)
 - 23) 関口 晃一 : 満州産の蜘蛛数種 Vol. V, No. 1, pp. 16-18, 1940 (*Sitticus* sp. の背面図有り)
 - 24) ————— : 日本産蜘蛛類図説 第2輯 Vol. V, No. 4, pp. 249-250 (5-6), 1940
(アシプトハエトリ、ハエトリグモ、デーニツツハエトリ、ランベルトハエトリの背面図と記載)
 - 25) ————— : アシダカグモ *Heteropoda venatoria* Linne' の生活史について (下) Vol. IX, Nos. 1-2, pp. 1-21, 1944
(チャスジハエトリ *Plexippus paykulli* の交接動作をアシダカグ

モとの比較の爲記述してある)

- 26) 高島 春雄: 秋の蜘蛛 下田と天城 Vol. II, No. 1, pp. 27-32, 1937
(故福井玉夫博士描図のアオオビハエトリがある)
- 27) —————: 高木敏行氏を悼む Vol. XII, Nos. 1-2, pp. 35-36, 1950
(文中、オニグモ、ハエトリグモ、コクサグモを用いたクモの色覚についての研究を紹介)
- 28) 植村 利夫: 和歌山県産蜘蛛類目録 Vol. I, No. 3, pp. 82-100, 1936
(文献表中「和歌山県産ハエトリグモ科」紀州動植物、1-1(1934)がある)
- 29) —————: 蜘蛛研究室彙報(1) Vol. II, No. 3, pp. 105-112, 1937
(海浜に棲むイソハエトリグモの記事有り)
- 30) —————: 生活形に依る蜘蛛の分類 Vol. III, No. 2, pp. 44-58, 1938
(流浪生活目、狩獵生活群、跳躍生活族としてハエトリグモ科・ササグモ科を分類)
- 31) —————(編): 蜘蛛方言録(第2輯) Vol. III, No. 2, pp. 78-80, 1938
(福島県川俣町附近に於ける蜘蛛の方言中にハエトリグモ及びチャスジハエトリが出ている)
- 32) 植村 利夫: ヨシエハエトリの分布 Vol. IV, No. 1, p. 27, 1939
(ヨシエハエトリ=Yoshiiyea agoana Kishida, 1913)
- 33) 八木沼健夫: 北海道の蜘蛛 Vol. XIV, No. 2, pp. 51-61, 1957
(マミジロハエトリ *Evarcha albaria* の palp の図有り)
- 34) —————: 蜘蛛の三新種 Vol. XX, No. 2, pp. 50-64, 1967
(ムツバハエトリ *Boethus sexdentatus* の新種記載)
- 35) 湯浅 啓温: 蜘蛛類餌食記録(I) Vol. IV, No. 3, pp. 90-92, 1939
(クマアリグモ *Myrmarachne kuma* がユスリカ1種を捕食)

種名(和名)による索引(五十音順)

アオオビハエトリ(4, 9, 11, 26) アカアリグモ(1) アシブトハエトリ(12, 15, 24)
アリグモ(1, 8, 9, 35) イソハエトリ(6, 29) ウススジハエトリ(1) オスクロハエトリ
(1, 4, 14) オスクロハネグモ(21) カラスハエトリ(1, 9, 15) クマアリグモ(8, 35)
クロアリグモ(1, 10, 20) クワハエトリ(1) ジヤバラハエトリ(1) ジョウネンハエトリ(1)
シラヒゲハエトリ(5, 12, 15, 16, 24, 31) チビクロハエトリ(2) チャイロアサヒハエトリ
(18) チャスジハエトリ(9, 15, 25, 31) デーニツツハエトリ(1, 9, 14, 15, 24)
トコノマハエトリ(1) ナカムラハエトリ(3) ナミハエトリ(15) ネコハエトリ(1, 8, 9,
19) ハエトリグモ(5, 7, 16, 17, 24, 27, 31) ハエトリグモ科(28, 30) ハエトリグモ
sp. (19, 23) マガネアサヒハエトリ(1) マミジロハエトリ(1, 33) ミスジハエトリ(13)
ムツバハエトリ(34) モミジハエトリ(1) ヤサアリグモ(1, 10, 20) ヤハズハエトリ(21)
ヨシエハエトリ(1, 32) ランペルトハエトリ(1, 20, 24) ワカバネコハエトリ(1)

以上が、第1巻から第22巻までに掲載されたものである。この他、東亜蜘蛛関係文献目録中にもハエトリグモについての論文紹介があるが、この分は、次回に一括して掲載することにする。

(松本誠治編)

KISIDAIA, №25, 1971, May

会 員 名 簿 (追 加)

新 井 進	339	埼玉県岩槻市西町 5-2-23
古 浜 隆	153	東京都目黒区祐天寺 1-28-11
古 内 栄 一	970-11	福島県いわき市好間町北好間字沢小谷 2 6
井 伊 伸 夫	657	兵庫県神戸市灘区国玉通り 2-9-14
小 林 久 俊	420	静岡県静岡市安東柳町 30 丸野氏方
熊 田 憲 一	221	神奈川県横浜市神奈川区片倉町 199
栗 原 輝代子	194	東京都町田市金森 1380-14
大 辻 桃 源	250	神奈川県小田原市南町 2-3-11
芹 田 政 光	340	埼玉県草加市稻荷町 103 キング工業(株) 親和寮
高 林 桂 子	141	東京都品川区大崎 3-12-1
竹 中 英 雄	228	神奈川県相模原市上鶴間 3995
梅 林 力	166	杉並区和泉 2-44-22
山 川 守	240	神奈川県横浜市保土ヶ谷区東川島町 37-3
		現在 44名

第一回 蜘蛛観察会の御案内

- 日 時 .. 昭和 46 年 5 月 23 日 (日) 雨天の場合は 5 月 30 日 (日)
- 場 所 .. 八王子市滝山城址
- 集 合 .. 八王子駅北口 12 番バス停 9 時 20 分
- 交 通 .. 9 時 31 分、10 時 4 分発サマーランド行きバス(左入経由)で滝山城址下車
- コ ー ス
- 持 ち 物 .. 昼食及び採集、観察用具

KISHIDAIA 1625

1971年 5月 1日 印刷 編集者 大河内 哲 二

1971年 5月 2日 発行 発行者 萱 嶋 泉

発行所 東 京 蜘 蛛 談 話 会

〒191 東京都日野市豊田 1896 萱 嶋 泉 方

PHONE 0425(81)7128

印刷所 埼玉県身体障害者更生指導所 タイプ 孔版 科